

## ご利益宗教

問題の多かった平成22年も終わり新しい年を迎えました。

お正月に欠かせない行事に初詣があります。今年も有名な神社仏閣は多くの人で賑わいました。報道機関の発表では、正月三が日、全国で約1億人の参拝者があったそうです。

人々は色んな「ご利益」を求めてお参りします。  
家内安全、商売繁盛、病気平癒、無病息災、学業成就、厄除け、ボケ封じ等々…。

一日限りのにわか信者が、次々と、虫のいいお願いを神仏にしている姿を見ていますと、いささか滑稽な感じもします。

もっとも、その願いは本人にとれば切実なものかもしれませんが、突き詰めれば、「思い通りにしたい」、「自分さえよければいい」という我欲に基づくものです。

厳しい見方かも知れませんが、ご利益を神仏に求めるのは、結局は自己中心のエゴなのです。

「商売繁盛させて下さい・・・」

「病気を治して下さい・・・」

「長生きさせて下さい・・・」

これは、神仏を祈っているのではなく、自分の欲望を祈っているのです。  
神様や仏さまを、自分の欲望を満たすために利用しているだけなのです。

よく普段から、あちらの神様、こちらの仏さまと、お寺や神社にご利益を求めてお参りする人がいます。中には、それを自慢する人もいますが、これは信仰心が篤いのではなく、ただ単に、欲の皮が厚いだけなのです。

しかも、残念なことに、こうした人々の欲を叶えてあげましょうという大衆迎合型宗教が実に多いのです。

ここで、はっきり申し上げておきますが、神様や仏さまに、私たちの虫のいい願いを叶えてくれる力などはありません。

もし、そんな力があるのなら、世の中に病気で苦しむ人はいないはずですし、受験に失敗する人もいないはずです。或いは景気が悪くなるということも起るはずがありません。

少し冷静になって考えればすぐ分かることです。

そうは言っても「お寺や神社はご利益を頂くところ」と思っている人がいる限り、この種の宗教はなくならないと思います。

親鸞聖人のご和讃（和語の歌）に、

仏号むねと修すれど  
現世を祈る行者をば  
これも雑修ざっしゅとなづけてぞ  
千中無一ときらわるる

[意識]お念仏を口にしながら、心の中でご利益を願う（現世を祈る）ような人は、全く阿弥陀さまのお心に沿うものではない。そういう人は一人として浄土に生まれることはない。

と、ありますように浄土真宗では、こうした神仏にご利益を願うということは、欲望に根ざすものとして厳しく戒めています。

親鸞聖人は「仏さまにこちらの願いを聞いてもらおうとするのではなく、私の方が仏さまの願いを聞いていくのですよ」と仰っています。

「南無阿弥陀仏は、あなたの人生に何が起ろうとも私が護り通して上げます。だから私を心の支えにしてこの人生を精一杯歩みなさいという阿弥陀さまの呼び声です。その呼び声に込められた阿弥陀さまの願いを聞いていくのですよ」と仰るのです。

これは、ご利益宗教と呼ばれるものと全く逆の考え方です。

仏教では、「我が身に起きることは、他から与えられたものではなく、自分が作った因や縁によるものである。だから、それを引き受ける以外、自分の生きる場所はない」と説きます。

つまり、いかなる事が起きても自らの責任においてそれを果たしていくというのが仏教の人生観です。

ですから思い通りにならないからといって、神さまや仏さまに「こうして下さい」、「ああして下さい」と、お願いするのは筋が違うのです。

たしかにこの人生には色々なことがあります。

人生の荒波にぶつかって砕けそうになることもあれば、余りの苦しさに、逃げ出してみたいとも思います。しかし、いくら苦しくても辛くても、我が身に起きることは自ら背負っていかねばならないのです。

これが、業報（自分のまいたタネは自分に還る。だから自分で刈り取っていく）の世界に生きる私たちの身の処し方です。

まことに厳しい世界です。

そんな世界に生きる私たちにとって、「どんなことがあってもあなたを護り通します。さあ元気して、精一杯この人生を歩いていくのですよ」と呼んでくださる阿弥陀さまの呼び声（南無阿弥陀仏）ほど心強いものはありません。

一分かってくださる人がいる

一支えてくださる人がいる

これがこの人生を歩む私に、計り知れない安心感と生きる力を与えてくれるのです。

そんな阿弥陀さまの呼び声に込められた願いをはっきりと聞き届けていく時、私たちは自ら背負わねばならない荷物を背負って、この人生を歩いていくことが出来るようになるのです。

そうして、そのような身（自らの荷を自らが背負っていける身）になることが、浄土真宗でいう、「助かった」ということなのです。

それはまた、長い長い迷いの「いのち」が終わり、真実に目覚めた新たな「いのち」の誕生を意味するのです。これを「前念命終・後念即生」と言います。仏になるべき身にさせていただくのです。

正確に言えば、この身のある間は「仏の仲間」（正定聚）となり、この身が終わると同時に、永遠のいのち（無量寿）をいただいて「無上仏になる」のです。

そこで、新年に当たって、山門の伝道掲示板に次のような言葉を書きました。

**病気が治るのがご利益ではない  
病気も無駄にしない智慧を頂くのが  
ご利益である**

今年一年、親鸞聖人のみ教えに学びながら、智慧ある人生を訪ねていきたいと思っています。

平成23年2月 「光明寺だより71号」より